

オオバコ科 クワガタソウ属

# フラサバソウ (フラサバ草)

*Veronica hederifolia* L.

## 自生環境

道ばた、野原、林縁 など

## 原産地

ヨーロッパ

## 予想される被害

### 駆逐



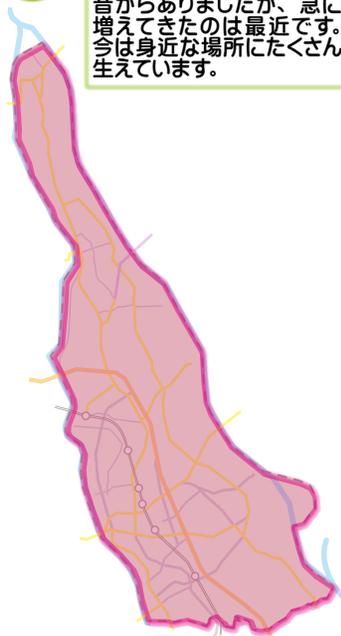
大量に発生し、地面を覆う勢いで広がります。春はさまざまな植物が芽生える季節ですが、フラサバソウが地面を覆ってしまうことで、それが妨げられる恐れがあります。

## 特徴

- ☆ 秋から冬にかけて発芽し、真冬のあいだも成長を続け、早いものは2月には咲きはじめます。花や果実をつけながら、どんどん茎がのびていきます。茎は柔らかく、地を這いながら50cmにも達することもあります。しかし果実が熟してくると急速に衰弱し、大型連休が終わるころにはタネを残して枯れていきます。
- ☆ 発芽直後は、大きな2枚の子葉（いわゆるふたば）が目立ちます。ふつつ子葉は、本葉と入れ替わるように枯れてしまうものですが、フラサバソウは例外的に果実期までずっと残ります。
- ☆ 日当たりのよい場所を好みますが、林道わきなどの薄暗い場所でもよく育ち、群生している姿を見かけます。花色は薄い青紫色ですが、株によって色の濃淡があり、日当たりの悪い場所に生えたものは、白っぽい色の花になることもあります。

## 市内の分布状況

昔からありましたが、急に増えてきたのは最近です。今は身近な場所にたくさん生えています。



## フラサバは人名から…

日本で最初にフラサバソウを発見し、記録に残したのがフランス人研究者のフランシエ (Franchet) とサバチエ (Savatier)。この2人が共著として1875年に刊行した『日本植物誌』の中に、明治初年に長崎での採集品が掲載されました。以降、国内ではなかなか見つからず、日本名がついたのはずっと後の話ですが、命名者は、最初に記録した2人の名前を記念して「フラサバ」と名づけました。

オオイヌノフグリを小さくしたような花が咲く



子葉はずっと残る



発芽したばかりの株。2枚の大きな子葉がよく目立つ



がくは毛が目立つ



茎や葉にも白い毛が多い



果実は平べったい球形で真ん中は少しへこむ



果実を包むがくはまるで小籠包のよう



別名はツタバイヌノフグリ。葉は小さなツタのよう



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

